

# 事務局説明資料

2023年1月31日

内閣府 知的財産戦略推進事務局

# 改訂版ガイドラインの編集方針

改訂版ガイドラインについては、現状、大きく次の編集方針を考えている。

- Ver.1公表後に明らかになった重要課題である「企業と投資家・金融機関との思考構造のギャップ」とこのギャップを埋めていく必要性を踏まえ、企業と投資家・金融機関等との協創につなげるべく、両者の相互理解を向上させる観点、企業との対話を通じて知財・無形資産の投資・活用による企業価値向上を促すことについての投資家の役割明確化の観点で改訂する。
- 大企業による知財活用状況の見える化、スタートアップへの経営資源提供などが企業自身の隠れた価値の顕在化・創造につながることを重視する観点でも改訂を行う。
- Ver.1公表後の動向、すなわち、SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）を加速化させるための「価値協創ガイダンス2.0」、人的資本開示指針の公表など非財務情報開示の環境変化を踏まえ、これらの指針とともに利用しやすくするための改訂も行う。
- Ver.1で提示した5つの原則・7つのアクションは踏襲し、これらについて理解を深めるために役立つ内容を記載。
- 「5つの原則・7つのアクション」とVer.2で明示する「ストーリー」「ROIC逆ツリー」「企図する因果パス」との関係については、次のように捉える。すなわち、「5つの原則・7つのアクション」を踏まえて、投資家・金融機関が重視する「ストーリー」「ROIC逆ツリー」「企図する因果パス」の視点で戦略を構築し、その戦略の開示発信を起点に投資家・金融機関と対話する。
- 章立ては、「1.本ガイドラインの目的・考え方」に続いて、次の順番で記載する。
  - Ver.1と同様、企業側の内容（基本となる考え方、ガバナンス）として「2.投資家や金融機関に伝わる知財・無形資産の投資・活用戦略の構築・開示・発信」、
  - 「3.知財・無形資産を経営変革や企業価値に繋ぐガバナンスの実践」
  - 企業側と投資家・金融機関側に共通の内容で、今回の改訂のポイントにもなる内容として「4.企業価値を顕在化する企業と投資家・金融機関のコミュニケーション・フレームワーク」
  - 投資家・金融機関等側の内容として「5.投資家や金融機関等に期待される役割」
  - 企業と投資家・金融機関等との対話として「6.企業と投資家・金融機関の望ましい対話」

# 本日議論をしていただきたいこと

本日の事務局説明を踏まえ、ガイドラインの改訂案についてご議論頂きたい。

- ① 編集方針について、Ver.1に取り組んでいる企業が混乱せずに、より取組みやすいようにするため、Ver.1で提示した5つの原則と7つのアクションを踏襲し、これらの深掘り、明確化に役立つ内容を記載する等、スライド1頁目に示す内容を考えているが、妥当であるか。

特に、「5つの原則・7つのアクション」と「ストーリー」「ROIC逆ツリー」「企図する因果パス」との関係について、「5つの原則・7つのアクション」を踏まえて、投資家・金融機関が重視する視点である「ストーリー」「ROIC逆ツリー」「企図する因果パス」の視点で戦略を構築し、その戦略の開示発信を起点に投資家・金融機関と対話する、という関係に捉えることを考えているが、妥当であるか。

- ② 目次案：5.及び6.において、投資家や金融機関が企業との思考構造のギャップを理解し、埋めるための行動を促進させる内容となっているか。追加して記載すべき内容等はあるか。

特に、投資家が、自らの思考構造、評価ポイントを企業に適切に説明して、理解を促すように努めることが、企業のより良い情報開示を促進させることになり、投資家も企業への理解が深まり、投資をしやすくなるというWin-Winの関係になり有意義であることを表せているか。

- ③ 企業変革の観点のみならず、社会変革の観点の記載（目次案：はじめに(1)②、1.(1)③④）について、これらの記載により、パッシブ運用の投資家が関心を持ち、期待される行動を促進させる内容となっているか。追加して記載すべき内容等はあるか。

- ④ 本ガイドラインに関して、今回の改訂においてもフォローしきれなかった点等の今後の課題として記載すべき点はあるか、またあるとすれば何を記載すべきか。

例えば、グローバルな投資家や開示フレームワーク等の関係、サステナブルファイナンスにおける知財・無形資産の役割など。

# 今後の検討の進め方（現時点の見込み）

## 第11回（6月27日）

- 知財・無形資産ガバナンスガイドラインを踏まえた取組、知財・無形資産の投資・活用戦略の開示及びガバナンスに関する取組の好事例、知財・無形資産ガバナンスガイドラインの周知方策

## 第12回（9月7日）

- 前回の議論の振り返り、今後の検討会における検討施策について
- 投資家の目線から企業の開示・対話ガバナンスが評価される観点について～投資家と企業の思考構造（ロジックツリー）の突合せのために～①

## 第13回（10月7日）

- 投資家の目線から企業の開示・対話ガバナンスが評価される観点について～投資家と企業の思考構造（ロジックツリー）の突合せのために～②

## 第14回（11月2日）

- 企業と投資家の対話イメージ化について

## 第15回（11月22日）

- 企業と投資家の思考構造のギャップについて①

## 第16回（12月5日）

- 大企業からの経営アセット提供、中小企業事例等について

## 第17回（12月19日）

- 企業と投資家の思考構造のギャップについて②
- 知財・無形資産の投資・活用促進メカニズム全体について

## 第18回（1月17日）

- 改訂版ガイドラインの方向性、骨子案について

## 第19回（1月31日）

- ガイドラインの改訂案について

## 第20回（2月14日）

- ガイドラインの改訂案について（⇒パブリックコメント）
- 普及促進の取組みについて

## 第21回（3月24日）

- ガイドラインの改訂案について（パブリックコメント後）

各回において、適宜、委員の方々、外部の方からの発表を予定しております。